

近世日本の教育遺産とは

「近世日本の教育遺産群」は、足利学校(足利市)、閑谷学校(備前市)、咸宜園・豆田町(日田市)、弘道館・偕楽園(水戸市)から構成される。これらは、16世紀中頃から19世紀中頃まで続いた日本の近世社会を支えた多様な教育の場とシステムの代表例を網羅し、日本独自の世界に類をみない階層を超えた教育の在り方を現代に伝える、必要にして十分な遺産群である。

戦乱の時代を克服して「平和」な時代となった近世日本では、法と組織が整備され、「文字社会」が到来したことから、人々は、読み書きそろばんのみならず、幼年から壮年に至るまで階層を超えて主体的に幅広い知識を得ようとした。為政者や知識人はこうした社会の動きを受けて、初歩的な学びから広く和漢洋に及ぶ多様な学問を教える空間と設備を整備した。

そこでは、身分・年齢・地域を超えて自然や地域と共生する場で教育が実施された。その結果、階層を超えてリテラシー(文字読解)の高い人々が増加した。人々は多様な知識と教養を習得すると

ともに、礼節や規範が社会的に共有されるに至った。学習者の中からは、多くの優秀な指導者や人材が輩出されて社会で活躍し、近世日本社会の発展と安定化を支えた。こうして人々の学びへの意欲はさらに高まり、教育資産が整備されるという好循環が生まれた。そして、つづく時代にアジアで最も早くに近代化を成功に導いた人材を輩出することに大きく貢献した。

「ユネスコ憲章」前文において教育の意義とそれを実践すべき義務が高らかに謳われている中、世界で今なお人々が等しく学びの機会を得ることが大きな課題となっている。また、近年SDGs(Sustainable Development Goals)が社会の大きなテーマとなっているなか、近世日本の教育遺産群は、教育という人間の重要な活動を伝える類型であるとともに、持続的に発展していった近世日本を支えた存在として、上記の特性と世界史的意義を証明する稀有な物証である。

提案資産一覧

- 足利学校**：戦乱の15世紀半ばから16世紀半ばにかけて広く北は奥州から南は琉球まで多くの人々が儒学や易学などを学ぶ。17世紀以降は幕府の官立(官営)学校になり、近世日本の教育遺産群の礎となった。
- 閑谷学校**：1670年に岡山藩主池田光政が創設。現存する世界最古の庶民の公立学校。地域のリーダーを育てる学びの伝統が現代も受け継がれている。
- 咸宜園**：1817年に儒学者廣瀬淡窓が創設。入塾にあたり、年齢・学歴・身分にこだわらない「三奪法」を導入。近世日本最大の私塾であった。
- 豆田町**：廣瀬淡窓出身の廣瀬家ほか多くの豪商がおり、彼らの子弟が咸宜園に入塾したほか、全国から人々が集まり、入塾にあたって門下生の下宿先となるなど、学園都市として咸宜園の活動を支えた。
- 弘道館**：1841年に水戸藩主徳川斉昭が創設した水戸藩の藩校。藩校最大の面積を誇り、様々な学問を学べる総合大学のような性格をもつ。
- 偕楽園**：1842年に徳川斉昭の「一張一弛」の理念のもと、弘道館で学び(一張)、修養する場(一弛)として整備され、領民にも広く開放された。

教育遺産協議会

検索

2023.11

主催：教育遺産世界遺産登録推進協議会
水戸市中央 1-4-1 (水戸市教育委員会歴史文化財課世界遺産推進室)
TEL：029-306-8132 E-Mail：isan@city.mito.lg.jp

海外から見た

Educational Heritage of Early Modern Japan From International Perspectives

近世日本の教育遺産群

お座敷? いいえ、教室です。

Guest room?
No, it's
a classroom.

2023
11/19 日
13:00-16:00

現地会場 On-site

ホテルオークラ
京都

オンライン視聴 Online



YouTube

重要文化財 弘道館至善堂 (茨城県水戸市)



現存最古の学校 足利学校



日本最古の郷学 閑谷学校



日本最大規模の私塾 咸宜園



日本最大規模の藩校 弘道館

「近世日本の教育遺産群」は、足利学校(足利市)、閑谷学校(備前市)、咸宜園・豆田町(日田市)、弘道館・偕楽園(水戸市)で構成される遺産群です。近世日本では、教壇や机を常置せず、畳や板張りの部屋を教室とするなど、同時代の世界とは異なる空間や設備の中で、世界に類を見ない階層を超えた教育が行われていました。協議会では、こうした遺産群を後世に伝え、その歴史的意義を世界と共有するため、世界遺産登録に向けた取組を推進しています。本シンポジウムでは、海外から見た遺産群について、教育史と世界遺産学に精通する国内外の専門家が一堂に会し、国際的な観点から遺産群の普遍的価値を議論します。

- 12:30 開場**
- 13:00 開会挨拶** 水戸市長 高橋 靖
- 13:15 基調講演 1**
「海外から見た近世日本の教育遺産群」
(コペンハーゲン大学教授 マーガレット・メール) 40分
- 14:00 基調講演 2**
「世界遺産としての教育遺産～近世日本の教育遺産群の場合～」
(ヘリテージモンテリオール政策部長 ディヌ・ブンバル) 40分
- 14:40～15:00 休憩**
- 15:00 パネルディスカッション**
コーディネーター 橋本 昭彦 (日本女子大学学術研究員)

パネリスト マーガレット・メール
ディヌ・ブンバル
江面 嗣人 (岡山理科大学特担教授)
大石 学 (東京学芸大学名誉教授)
岡田 保良 (国士舘大学名誉教授)
- 15:55 閉会挨拶** 足利市長 早川 尚秀
- 16:00 閉会**

基調講演 1 「海外から見た近世日本の教育遺産群」



【マーガレット・メール Margaret Mehl】
コペンハーゲン大学教授
ドイツ出身。ボン大学で日本学を専攻。同大学修了後、2年間東京大学に在籍。スコットランド・エジンバラ大学助教授やスコットランド・スターリング大学助教授等を経て現職。近世後期から近代の日本史や文化史を研究。著書に『歴史と国家: 19世紀日本のナショナル・アイデンティティと学問』(東京大学出版会:2017)など。

基調講演 2 「世界遺産としての教育遺産～近世日本の教育遺産群の場合～」



【ディヌ・ブンバル Dinu Bumbaru】
ヘリテージモンテリオール政策部長
カナダ出身。イコモスカナダ国内委員会委員長、イコモス事務局長等を歴任。建築学や建築保存学を専攻し、「明治日本の産業遺産群」にて有識者会議に参加したほか、「富岡製糸場と絹産業遺産群」など国内外の多くの世界遺産登録に携わる。

パネルディスカッション



【橋本 昭彦】
日本女子大学学術研究員。大阪府出身。国立教育政策研究所総括研究官等を経て現職。専門は比較教育史。著書に『江戸幕府試験制度史の研究』(風間書房)など。



【江面 嗣人】
岡山理科大学建築歴史文化研究センター長・特担教授。東京都出身。文化庁主任文化財調査官等を経て現職。専門は日本建築史、文化財修復、町並み保存。著書に『近代の住宅建築』(至文堂)など。

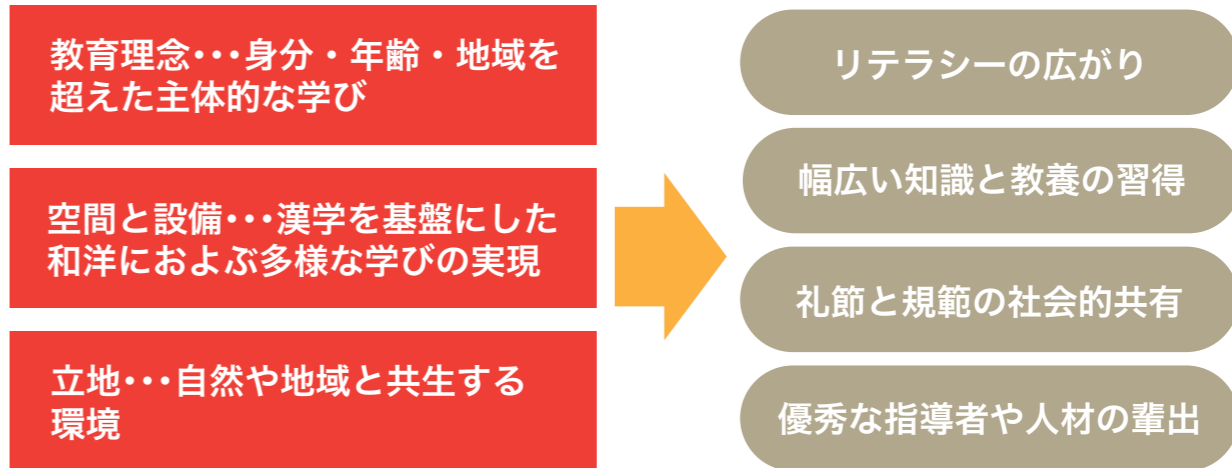


【大石 学】
東京学芸大学名誉教授。東京都出身。東京学芸大学教授や独立行政法人日本芸術文化振興会監事等を歴任。専門は日本近世史。著書に『江戸の教育力』(東京学芸大学出版会)など。



【岡田 保良】
国士舘大学名誉教授。大阪府出身。国士舘大学イラク古代文化研究所所長や日本イコモス国内委員会委員長等を歴任。専門は西アジア建築史・文化遺産学。著書に『世界文化遺産の思想』(東京大学出版会)など。

世界に類をみない階層を超えた教育の場



階層を超えた教育を証明する稀有な資産群



「平和社会」の継続と近世日本の教育の発展

近世日本の教育遺産群の特徴を示す概念図